〔濫觴抄下〕攝政本朝

清和元年戊寅、天安二　外祖太政大臣良房公始任之、五十

〔神皇正統記清和〕天皇諱は惟仁、水尾の帝とも申す、文德第四の子、御母は皇太后藤原の明子、染殿の后と申す　攝政太政大臣良房の女也、我朝は幼主位に居たまふ事稀なりき、この天皇九歲にて卽位、戊寅の年なり、己卯に改元、踐祚ありしかば、外祖良房の大臣はじめて攝政せらる、○中略　天皇おとなび給ければ攝政政を還し奉りて、太政大臣にて白河に閑居せられにけり、君は外孫にましませば、なほも權を專らにせらるともあらそふ人あるまじくや、されど謙退のこゝろふかく、閑適をこのみて、常に朝參などもせられざりけり、

〔大日本史贊藪三〕藤原良房及子孫傳贊

贊曰、良房相業、雖不多見、而文德帝期以蕭何、則規模徽猷、必有可觀者、興耕田之禮、欲使幼主知稼穡之艱難、則其輔贊彌縫之功、可推而知也、基經廢昏立明、一爲社稷大計、可謂至公無私、近於霍光之所爲、而其器過於傅亮徐羨之遠矣、然文德帝畏良房勢、不得立惟喬親王、宇多帝駭基經之訟、遽收阿衡之詔、則威權之逼、不啻負芒之憚、而奕世昌熾、一門不知其幾后、外戚之盛、實基于此矣、

〔三代實錄二十九清和〕貞觀十八年十一月廿九日壬寅、天皇讓位於皇太子、○陽成　勅右大臣從二位兼行左近衛大將藤原朝臣基經、保輔幼主、攝行天子之政、如忠仁公○藤原良房　故事、詔曰、現神止大八洲國所知倭根子天皇我詔良止萬勅御命乎、親王諸王諸臣諸司百官乃人等天下公民衆諸聞食止宣、朕以薄德天天日嗣乎忝之賜倍利、日夜無間久愼畏利御坐須、而君臨漸久久年月改隨爾熱病頻發利御體疲弱之天不堪聽朝政、○中略　今所思波朕毛昔以幼稺天得鐘此位利、賢臣乃保佐爾賴天得至於今日利、然則良佐乃翼戴波皇太子乃大成己止何遠之有乎止奈母念行須、故是以皇太子止定多留貞明親王爾此位乎授賜布、諸衆此狀乎悟天清直心乎持天皇太子乎輔導岐仕奉天天下乎平介久介有與、○中略　右大臣藤原朝